

スマイルまなづる 100号

真鶴町立まなづる小学校

令和3年度学校だより

12月24日発行

【文責 校長 浜口勝己】

【学校教育目標】「自分を大切に 仲間や学校を大切に 町を大切に」

～自立をめざし 自分のよさを生かして まちに関わろうとする子の育成～

2021（令和3）年、お世話になりました

12月10日（金）の学級懇談会には、多くの保護者の皆様にご出席いただき、ありがとうございました。今回は、例年の「学校での様子」や「冬休みの過ごし方」、「通知表」などの内容に加え、「オンライン学習に向けた Googlemeet（グーグルミート）の接続の仕方」を実際にお子様のタブレット端末を使って行うということも懇談会の内容として取り上げました。16日（木）と20日（月）には、Googlemeetの接続確認にもご協力いただき、併せてお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症のため、万が一、休校になった際の対応の一つとして、オンライン学習を行うことがあるかもしれません。そのための環境整備が少しずつ整ってきました。オンライン授業のためだけでなく、他の学習活動の一環としてタブレット端末を持ち帰ることも出てくるでしょう。その際には、ご家庭での管理についてもご協力を頂くことになるかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

また、過日は保護者アンケートにもご協力をいただき、ありがとうございました。今年度は、マチコミメールを活用してアンケートを実施しました。頂きましたご意見等につきましては検討の上、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

昨年に引き続き、今年もまた新型コロナウイルス感染症予防対応に追われた1年でした。教育活動も内容によってはいくつかの制約を受けたものもあつた中、保護者の皆様方にご理解・ご協力をいただいたことで実施できた行事等もあります。心より感謝申し上げます。

一方、5年生の宿泊体験学習や運動会では、雨天の際の対応・判断について、保護者の皆様方にご心配をおかけしたこともありました。課題については、職員一同、検討を加え、安心・安全でより良い教育活動の在り方を追究していきたいと考えております。

2021（令和3）年、本当にお世話になりました。どうぞよいお年をお迎えください。

異学年交流が進んでいます

① なかよしタイム〔11月26日（金）、12月9日（木）〕

「なかよし班」ごとに遊ぶ「なかよしタイム」がありました。ロング昼休みを設定し、高学年が中心になって考えた遊びを班ごとに楽しみます。上の学年が下の学年のことを思いやりながら、いろいろな遊びを楽しむ時間です。班ごとに運動場や各教室で行いましたが、どの班も和気あいあいと楽しんでいるようでした。高学年が下級生に気を使いながらも、楽しい場になるよう工夫を加えてリードしている様子がうかがえます。下級生が上級生を慕っている様子を見受けられる班もありました。



② 体育委員会主催の体育集会

〔11月29日(月)…1・6年生、12月1日(水)…2・4年生、12月3日(金)…3・5年生〕

3日間にわたって、昼休みに体育館で体育委員会が集会を行いました。いずれも希望参加です。

1年生と6年生は「十字鬼」、2年生と4年生は「ジェスチャーリレー」、3年生と5年生は「ドッジボール」をしました。いずれも、上の学年が下の学年に優しく接する場面が見受けられました。



③ 朝の時間の「なかよし交流」〔11～12月〕

事務局委員会の提案で、朝の時間に「なかよし交流」が行われました。3・6年生、2・5年生、1・4年生、5・6年生、3・4年生、1・2年生の交流がありました。ここでも、上の学年が中心になっていろいろな遊びを考えています。下の学年から「またやりたい。」という声もあり、上の学年が「いいよ。またやろうね。」と返したということもありました。

学年によって、異学年交流がもたらすメリットは異なります。上級生への憧れ。下級生への優しさ・思いやり。上級生・高学年・最上級生としての自覚。自分たちが上級生から受けた楽しい機会をもとに「どうしたら相手は楽しいと思ってくれるだろう。」と、下の学年に対して企画する際に考える「思いやり」の心とその「思いやり」を生かした発想・アイデア。同学年だけで過ごしている時には見せない一面を異学年交流の際に見せる子たちもいます。

ほとんどの学年が単級となり、クラス替えもない状況では、人間関係も固定しがちです。そのような環境にあるからこそ、異学年交流は貴重な機会となります。コロナ禍で交流にも制限が付きがちですが、その意義をしっかりと踏まえ、できることを続けていきたいと思えます。

手作りおもちゃを頂きました

熱海市下多賀在住の出口尚さんから「竹とんぼ」をはじめとする様々な「手作りおもちゃ」を多数寄贈していただきました。出口さんは熱海市内の小学校をはじめ、他県の小学校も訪れ、「手作りおもちゃ」をプレゼントされているそうです。

「竹とんぼ」は全校児童数分、いただきました。12月14日(火)、1年生が生活科の学習を兼ねて、出口さんから竹とんぼの遊び方や飛ばし方のコツを教わり、実際に飛ばして遊びました。最初はうまく飛ばせなかった子たちも、試行錯誤を繰り返しながら、コツをつかみ、うまく飛ばせるようになりました。出口さんは、「身体で覚えたことは、いくつになってもすぐに思い出す。」とおっしゃっていました。手作りおもちゃの良さは、「体験から得る学び」につながります。1年生の子供たちの「飛んだ!」と感激していた時の笑顔や目の輝きは、その良さの表れの一つともいえるでしょう。冬休みを控えていますが、ぜひ、日本の伝統的な遊びに触れていただきたいと思えます。

